

# YMC A学院高等学校(広域通信制)

## いじめ防止対策基本方針

### 1. いじめ防止等に関する基本的な考え方

#### (基本理念)

いじめは、その子どもの将来にわたって内面を深く傷つけるものであり、人格にも影響し、人生を変えるものとなる。本校は、キリスト教主義教育を基盤として、精神、知性、身体、社会性の均整のとれた成長を育むことを理念とし、一人ひとりが神から創られたかけがえのない存在であることを日々の学校生活の中で伝えている。学校法人大阪YMC A高校生事業の教育方針・スクールモットー「安心できる環境と関係性」「生涯にわたる出会いと成長」「多様性の尊重」があり、すべての教育活動の目標にしている。また生徒が一定の人的関係にある者から心理的又は物理的な影響を受け、「いやだ」と感じたことは、「いじめのはじまり」として学校側が真摯にかつ早急に対応する。

#### (いじめの定義)

「いじめ」とは、当該生徒と一定の人的関係にある者から、心理的または物理的な攻撃（インターネットを通じて行われるものを含む）を受けたことにより、心身の苦痛を感じているものをいう。個々の行為が「いじめ」にあたるか否かの判断は表面的、形式的に行なうことなく、いじめられた生徒の立場に立って行なうことが必要である。

#### (学校及び職員の責務)

いじめが行われず、すべての生徒が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者、地域住民、その他関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速に対処し、再発防止に努める。

### 2. いじめの防止等に関する内容

#### (いじめ未然防止のための取組)

- ・キリスト教主義教育での、礼拝、聖書の時間、また行事等での祈りを通して、一人ひとりが神から創られたかけがえのない存在であることを学ぶ。
- ・神の御心にかなう平和な世界を一人ひとりが創っていくことを意識させる。
- ・学校法人大阪YMC A高校生事業の教育方針・スクールモットー「安心できる環境と関係性」「生涯にわたる出会いと成長」「多様性の尊重」を日常生活の中で徹底し、具体的に形に表れるようにする。
- ・生徒に対し、教職員は受容的、共感的態度で接する。
- ・いじめに向かわない態度・能力を育成するため、オリエンテーション、HR、行事等で仲間作りを意識的に行う。生徒が多様性を受入れ、互いに尊重できる安心できる環境を提供する。
- ・自己肯定感の向上にむけて、生徒一人ひとりの自己肯定感の向上をめざす。学校生活を通して、役割を担う機会を創出し、ボランティア活動を推進する。

- ・教職員同士が協力体制をとり、生徒の情報交換・支援を行なうため、連絡会議や生徒支援会議を活用する。
- ・家庭への日々の連絡・個人面談等を丁寧に行い、日ごろから保護者との信頼関係を築く。
- ・生徒の少しの変化も見逃さず、見守っていくために、校務の効率化をはかるとともに、さまざまな居場所づくりを積極的に行い、生徒とかかわる時間を多くするよう努める。

#### (いじめ早期発見のための取組)

いじめの特性として、いじめにあってはいる生徒がいじめを恥ずかしい、もしくは親に心配をかけたくないと考えたり、いじめの拡大を恐れたりして大人に相談できないことが多い。そのような場合、隠匿性が高くなり、いじめが長期化、深刻化することがある。それゆえ、教職員は生徒の変化、隠れているいじめの構図に気づく感性、洞察力、問題意識、そのことに向かう行動力が求められる。

- ・生徒対象いじめアンケート調査 年2回(前期、後期)
- ・担任による生徒からの聴き取り調査 年2回(前期、後期)
- ・生徒及び保護者がいじめに係る相談が行うことができるよう、カウンセリングスペース、保健室の活用を全教職員が心がける。
- ・スクーリング、休憩時間、保健室等さまざまな教育活動の中で、教職員・ボランティアで生徒たちを見守り、観察し、いじめの芽を見逃さない。
- ・生徒が日常話すことに真摯に耳を傾け、問題を見過ごさない。
- ・生徒には「大人に相談することは、ちくることではない」と日常的に伝え、困ったら大人に相談することを薦める。
- ・気になる点は、教職員で報告しあう。必要があれば週1回の連絡会議であげる。担任は一人で抱えない。

### 3. 「いじめ防止会議」の設置

本校は、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、「いじめ防止会議」を設置し、学期に1回程度開催する。ただし、いじめと疑われる相談・通報があった場合は、緊急に開催する。

#### (1) 「いじめ防止会議」の構成

生徒支援会議に管理職を入れたメンバーで構成される。必要に応じてカウンセラーやアドバイザーも含む。

#### (2) 活動内容

- ・いじめ防止等の取り組み内容の検討、基本方針、年間計画作成、実行、検証、修正
- ・いじめに関する相談、通報への対応
- ・いじめの判断と情報収集
- ・いじめ事案への対応検討、決定、警察との連携
- ・いじめ事案の報告

### 4. 重大事態への対処

いじめにより、生徒の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた場合や、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている等の疑いがある場合は、大阪府知事に報告し、「いじめ防止対策会

議」を設置し、迅速に調査に着手する。

(1) 「いじめ防止対策会議」の構成

生徒支援会議に管理職を入れたメンバーで構成される。必要に応じてカウンセラーや専門的知識及び経験を有する者等の第三者等とする。

(2) 活動内容

- ・発生した重大事態のいじめ事案に関する調査
- ・調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた生徒やその保護者に対して適時・適切な方法での情報提供や説明
- ・大阪府知事への調査結果報告
- ・調査結果の説明について、いじめを受けた生徒又はその保護者が希望する場合は、所見をまとめた文書を添えて、調査結果の報告を提出。

\* 専門的知識及び経験を有する者等の第三者の参加を図り、当該調査の公平性・中立性を確保するように努める。

5. その他

(1) いじめを隠ぺいせず、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うために、次の2点を学校評価項目に加え、適正に自校の取組みを評価する。

- ・いじめの早期発見に関する取組みに関すること
- ・いじめの再発を防止するための取組みに関すること

(2) その他詳細は、大阪YMCA安全管理ガイドラインに基づき、細心の注意と誠実な対応に努める。

以上